

## 2. ほ場整備工事

### 2-1 表土扱い

#### (1) 表土の厚さ測定状況



#### 留意事項

- 広めに掘っており、境界面がわかりやすい。
- 目盛が確認できる。

#### 撮影方法

- 表土・心土の境界面がわかるように撮影する。
- 実測部、基盤面、背景を明確にし、表土の厚さが確認できるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 実測寸法(表土厚)を記入する。

## 2-2 基盤造成・表土整地

### (1) 基盤整地状況



#### 留意事項

- 表土はぎ後の心土の状況、表土の仮置状況、暗渠設置状況、使用機械など、全体の状況がわかりやすい。

#### 撮影方法

- 使用機械はもちろんのこと、施工範囲のほ場全体の状況がわかるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 施工場所
- 作業内容
- 使用機械名・規格を記入する。

### (2) 均平度の測定状況



#### 留意事項

- ほ場面が見えないので、均平度などの状況がわかりにくい。
- レベルの設置位置は、ほ場の全体が把握できる位置に移動する。

#### 撮影方法

- 測定対象ほ場とともに、測定状況がわかるようなアングルで撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計標高・実測標高を記入する。

## 2-3 畦畔復旧

### (1) 畦畔復旧の出来形管理状況



#### 留意事項

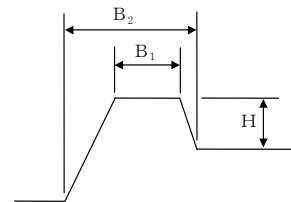
- 天端のあて尺の測定範囲がわからない。
- 測定範囲や実測寸法の目盛の確認は、あて木やピンポールなどでわかるようにする。

#### 撮影方法

- あて尺を正確に設置し、出来形寸法が確認できるように撮影する。
- ピンポールを用いて目盛が確認できるようにする。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入する。



## 2-4 道路工（砂利道）

### （1）厚さの測定状況



#### 留意事項

- 測定孔が小さく、スタッフの下端が見えないので、実測寸法が確認できない。
- 必要のないリボンロッドは外す。

### （2）幅の測定状況



#### 留意事項

- 起終点到ピンポールを立てて使用し、測定範囲がわかりやすい。
- 背後の施工状況が確認できる。
- 黒板を前に置き記入内容がわかるようにしている。

#### 撮影方法

- つぼ掘の形状を明確にし撮影する。
- スタッフの下端と水平面を明確にして、敷砂利厚さの出来形寸法が確認できるように撮影する。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入する。

#### 撮影方法

- 出来形寸法とともに、背後の状況が確認できるように撮影する。
- リボンロッドを使用する場合は、たるませないように張力を加える。

#### 黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測点
- 作業内容
- 設計寸法・実測寸法
- 略図を記入する。